

# 群馬県がん患者団体連絡協議会

## ニュースレター♪

2008年12月1日 第11号



### ～主な記事～

- ◇ ちょっとお知らせ 健康づくり財団の機関誌に「地域のがん医療」を特集
- ◇ 第4回がん患者大集会を通して見えてきた課題
- ◇ リレー通信 各団体の活動「群馬あかぎ互療会」
- ◇ 掲示板（お知らせ）

### ♪ちょっとお知らせ♪

健康づくり財団のCMのようになってしまいますが、年に2回（1月と7月）「健康ぐんま」という機関誌を発行しています。これまでにがん連協の発足につながる原稿を群馬大学保健学科神田教授に執筆いただいたり、がん対策基本法が施行された平成19年1月には『がん対策の今とこれから』という県内のがん対策を特集しました。この時にはあけぼの群馬とひまわりの会会員が「これからのがん検診・がん治療に望むこと」について対談を実施。このことで患者会の横のつながりが動き出し、3月にがん連協が誕生しました。

平成21年の幕開けとなる新年号は「地域のがん医療」特集です。

当協議会から「がんサロンへの提言 群馬県にがんサロンを！」という原稿を寄稿しました。他には、緩和ケア診療所いっぽの小笠原先生に「がんには二通りの医療があります」、竹尾マンモプラスクリニックの竹尾先生に「乳がんの地域医療連携」、がん連協でいつもお世話になっている群馬大学附属病院総合診療部 石田看護師長さんに「がん患者を支えるコミュニケーション方法」をそれぞれ執筆いただきました。県の保健予防課からは「がんサバイバーシップ」についてというトピックスも寄せられています。患者のニーズを特集し、患者の声を代弁してほしいとのお願いに応えていただきました。完成したら皆様にもお届けします。今号はがん診療連携拠点病院にも置いていただきたいと思います。

編集・発行/(財)群馬県健康づくり財団



## 第4回がん患者大集会を通して 見えてきた課題

がん看護研究会 狩野太郎  
(県立県民健康科学大学)

去る平成20年11月30日、「考えよう、私の町のがん医療」をテーマに、築地の国立がんセンターをメイン会場に全国9カ所のがんセンターを中継で結び、第4回がん患者大集会が開催されました。この会は全国60の患者団体で構成される日本がん患者団体支援機構の主催で、私ども群馬がん看護研究会も後援団体として参加いたしました。当日は会場が狭いため、私はインターネット放送の視聴により参加いたしました。当日の様子は、インターネットを通じてどなたでも視聴できます。

<http://www.daishukai.net/2008/main.html>

シンポジウムでは、徳光アナウンサーを司会に、全国の患者さんやご家族、ご遺族の皆さんから多くのメッセージが寄せられました。その内容は、「拠点病院や相談支援センターのPRが足りない」、「がん対策推進計画がほとんど知られていない」、「地方行政担当者の関心が低い」、「がん対策基本法が絵に描いた餅になろうとしている」、「目標は定めたが、具体策も進捗状況の確認方法も何も決まっていない」、「都道府県によってがん対策の予算も担当者の意識も大きな格差がある」など、大変厳しいものでした。これらの問題の多くは、去る9月22日に群馬県民会館で行った群馬県がん患者大集会を通して私たちが感じた問題点と一致しており、法律や計画ができてただけで満足してはいけないことを、改めて強く感じました。

がん対策を絵に描いた餅に終わらせないためには、行政が動くのを待つのではなく、患者会をはじめ患者や家族が一般市民やマスコミの力を借りながら行政を動かす、患者、家族、医療、行政、一般市民がスクラムを組んでがん対策推進計画に取り組む必要があります。そして群馬県では、その中心的な役割を私たちががん患者団体連絡協議会が担うしかありません。

当面の課題としては、県の担当者に私たちの連絡協議会を知っていただき、できる仕事から一緒にはじめること、がん対策推進計画の年次計画や段階的な目標設定を県の担当者と一緒にやること、これまで取り組んできた各団体の活動や、一般市民向けがん検診の啓発活動を続けること、などがあげられます。

私たちは、がん患者・家族を支え、群馬のがん医療を良くしたいとの思いで集まりました。そして、活動を通して仲間になりました。やるべきことはたくさんありますが、まずはできることから始めて行きましょう。

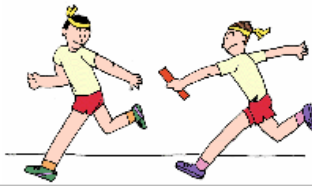
—Yes, we can!



# リレー通信 各団体の活動

がん連協の各団体リレー通信

第8回目は  
群馬あかぎ互療会  
紹介者は大島主好さんです！



- ① 群馬あかぎ互療会はいつ作られましたか？  
昭和55年5月11日に設立されました。
- ② 会の目的を教えてください。  
本会は社団法人日本オストミー協会に所属し、会員の相互扶助を目的とし、病後の相談、療養体験、装具の改良など、経験をもとに交流し健康の回復を図り、会員の明るい日常生活に寄与することを目的とする。
- ③ 現在の会員数は？  
160名です。
- ④ 主な活動を教えてください。  
春の定期総会と秋の大会（一泊研修旅行）の実施  
地域ごとの体験交流会の実施  
会員の増強対策の実施  
本部会報にあわせて、奇数月に支部会報を発行  
全国大会へ参加  
国際交流の推進  
オストメイト対応トイレの設置の推進  
介護サービスを受ける時のストーマ用装具の交換ができるように要請  
災害時のストーマ用装具の緊急支給について要請
- ⑤ オストメイトについて教えてください。  
ストーマを持つ人のことです。人工肛門保有者・人工膀胱保有者ともいいます。ストーマとは、手術によって便や尿を排泄するために腹壁に増設された排泄孔のことをいいます。消化管ストーマと尿路ストーマがあります。オストメイトをストーマのタイプ別にいう場合は、コロストメイト（結腸ストーマ保有者）、イレオストメイト（回腸ストーマ保有者）、ウロストメイト（尿路ストーマ保有者）といえます。オストメイトの間では、もっと簡略化して、コロ、イレオ、ウロと表現しています。



オストメイト（人工肛門・人工膀胱）用の設備を備えています

身障者・多機能トイレ入口に表示されている  
オストメイトマーク

2008年11月10日 秋の一泊研修旅行  
水上ホテル聚楽にて



# 掲示板



みなさんにご協力いただければうれしいです。

## ◇提案 がん診療連携拠点病院 相談支援センターを訪ねてみませんか？

先日、群馬がん看護研究会・狩野先生に「がん連協でも、県内にあるがん診療連携拠点病院と交流を深めるため、少しずつがん支援相談センターを訪問して紹介できないでしょうか？ ついては、『寄り道』も含めて紹介したいのですが...」と相談したところ、「そういったものも楽しいかもしれませんね」と返事をいただきました。

普段、少しではありますが事務局にかかってくる相談の電話では、まだ相談支援センターの存在が知られておらず、こちらから最寄りの相談支援センターを紹介するケースもあります。

そこで、暖かい春になってから会員のみなさんも含め、県内がん診療連携拠点病院・相談支援センターを訪問し、このニュースレターに掲載できたらと考えております。

かたくるしいものではなく、訪問記で、機会があったらその病院の近くのお店や風景なども紹介していきたいと思えます。興味のある方、こういった作業は得意だわ、という方、ぜひ取材のご協力をお願いします。(事務局)

## ◇お悔やみを申し上げます

去る11月27日、評論家であり、1. 2の3で温泉に入る会代表者、がん患者団体支援機構の理事長を務めた俵萌子さんがご逝去されました。これまで、多くの活動を通して患者会に希望を与え、私たちが前進する原動力となって下さいました。本当にありがとうございました。今後、私たちの力でよりよいがん医療を育てることを俵さんに誓い、心からご冥福をお祈りいたします。

【群馬県がん患者団体連絡協議会 事務局】

〒371-0005 前橋市堀之下町16-1  
(財)群馬県健康づくり財団 総務部 総務課

電話027-269-7811・FAX027-269-8928  
E-mail soumu3@gunma-hf.jp

あっという間に1年が過ぎました。今年は新しいことにふたつ取り組むことができました。  
この冬、石油ストーブを購入し、焼き芋やお餅を焼いています。いつもより暖かさを感じています。  
来年もみなさまにとってよい1年でありますように...

編集担当 事務局 荒木美保

